

どんなときに救急車を呼ばなければいいのか？

けいれんが止まらない、5分以上続く、繰り返す
呼吸がきわめて困難になっている（「せきが出る」 P3）

ひどい腹痛や頭痛がある

意識が無い

出血が激しく止まらない（鼻血は「いつもと様子がちがう」 P6）



局番なしの「119」をダイヤル
「救急車をお願いします」と伝える
子どもの名前、年齢、住所、電話番号、場所の目印となる建物などを伝える
持病がある場合は、その病名とかかりつけの医療機関を伝える
子どもの症状を伝える

救急車を待つ間



健康保険証、母子手帳、お金用意する。

玄関の鍵を開ける。

家族や近所の人がいれば、救急車が到着したときの誘導をお願いする。

救急車で病院に行くとき



救急救命士の指示に従う。

家を出る前に火元を確認する。

入院せずに帰宅することもあるので靴を持って行く。

戸締りを忘れずに！

（社団法人 日本小児科学会）

子どもの救急ホームページ <http://kodomo-qq.jp>

ホームページを開く 「気になる症状」をクリック あてはまる症状を選択
「救急車で病院に行く」「自家用車で病院に行く」「おうちで様子を見る」
などの対処方法が表示されます。受診の判断の目安にしてください。

チャート取り扱い説明書

チャートで行き着いた指示の塗りつぶしの色の意味



救急車を呼ぶ！ 2次・3次救急レベルの可能性あり！

入院や集中治療が必要になる可能性が高く、場合によっては命に関わる場合もあります。

必ず電話相談を！

入院（2次救急）レベルの病気かもしれません。

119番ではなく、かかりつけ医か2次救急輪番病院か#8000番へ

あわてなくてもよい（1次救急）レベルでしょう。

診察時間内にかかりつけのお医者さんに診てもらいましょう。

連休中なら翌日の休日診療所などを受診しておきましょう。

病気ではない・心配ない状態でしょう。

子どもの急な病気・けがなどで受診を悩んだら

小児救急電話相談 #8000

小児科医師・看護師などから子どもの症状に応じた適切な対処の仕方や、受診する病院等のアドバイスを受けられます。



相談時間

月～金

土曜日

日・祝

～

～

～

ダイヤル回線・IP電話からは ()

電話が混み合ってつながりにくい場合が予想されますが、あらかじめご了承ください。

電話がつながったら、あわてずゆっくりと、お子さまの症状、年齢、お住まいの市町村などをお話しください。

誤飲に関するご相談は「中毒110番」をご利用ください。（P10参照）

熱が出た



逆に36度未満の低体温にも注意！

発熱は体の負担となります、防御反応のひとつです
人はウイルスや細菌などの病原体に感染すると熱を出して体内に入り込んだ病原体の活動を抑えようとしています。平熱よりも1度以上高く、環境を整え、時間をおいても下がらないなら発熱といえます。他にもいつもと違つ様子が無いか確認しましょう。（普段から体温をはかり平熱を知つておくことも必要です）
赤ちゃんは体温調節機能が未熟なため、室温や衣類の着せ方によつて体温が上昇することもあります。

発熱十嘔吐十頭痛

（赤ちゃんなら不機嫌・不活発）と3つの症状が揃えば『髄膜炎』の可能性があります。
髄膜炎の場合、頭や首などが痛くて首を前に曲げにくくなります。ですから、もしお子さんが、お気に入りのおもちゃを下に置いて、あごが胸に付くぐらい目線を落とし、機嫌よく遊べていれば、髄膜炎の可能性は低いと思います。ただし乳幼児期にはそういう症状が出にくい場合もありますので、3つの症状がある場合は早期相談・早期受診が必要です。

子どもの急な発熱で受診をした方が良いか悩んだときは、小児救急電話相談「#8000」を利用しましょう。（詳しくはP1を参照）

「顔色不良」なうえ
(顔面蒼白やチアノーゼ)
「呼吸が弱い」
「意識がない」
「言動がおかしく
視線も合わない」
「5分以上のけいれん」
などの時は
救急車を！



受診前には必ず確認の電話を病院へ！
解熱剤の座薬や頓服をいつも家にストックしてね！
これは痛み止めとしても使えます。
大人に使う薬は子どもには代用禁とします！

小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう(P1参照)

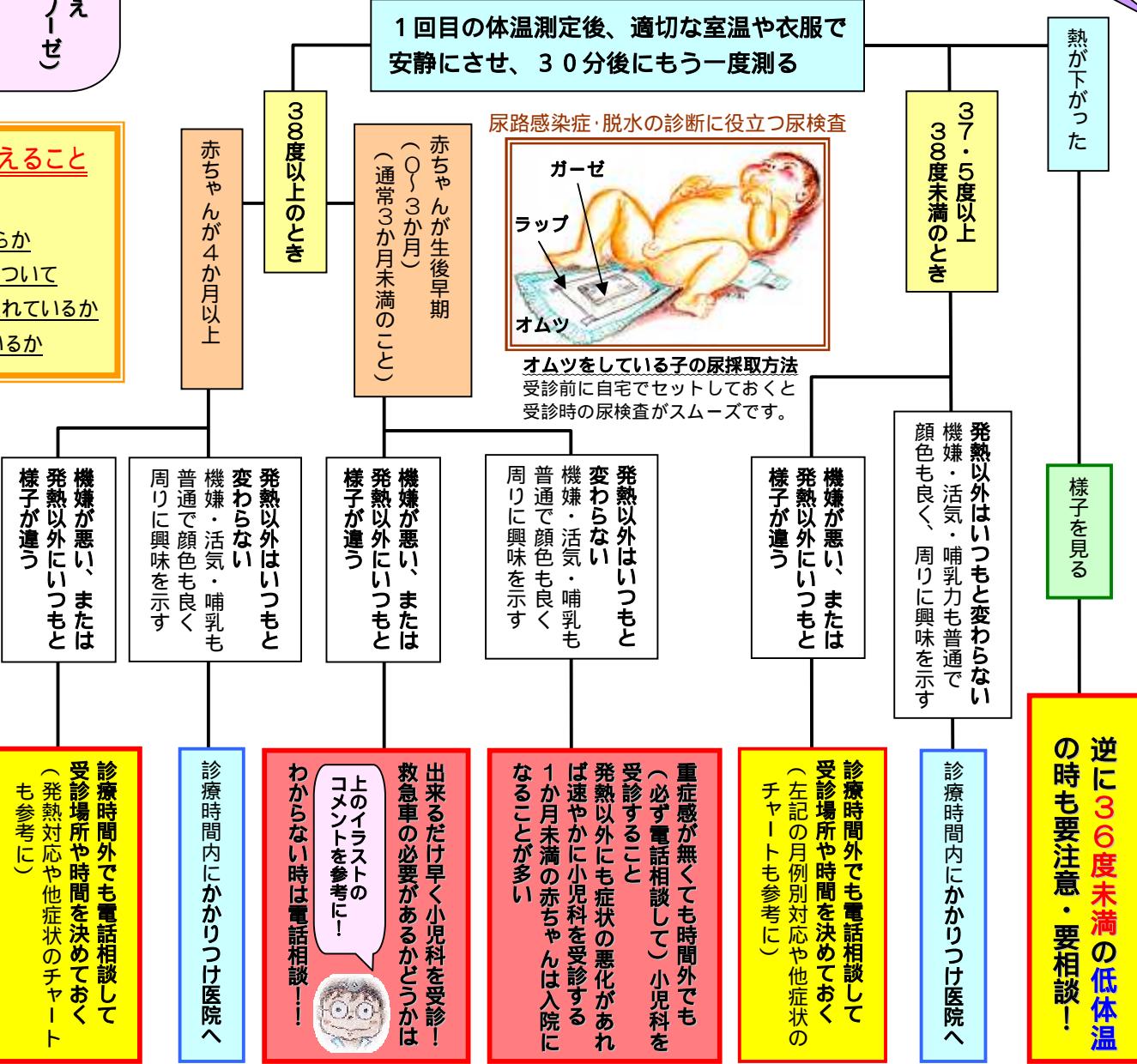


医師に伝えること

- ・熱は何度あるか
- ・熱はいつごろからか
- ・熱以外の症状について
- ・食事や水分は取れているか
- ・おしっこが出ているか

尿検査の重要性

尿の（回数や量・色の濃淡などの外観も含め）検査は、患児の情報を沢山知ることができる宝の山です。点滴が必要なくらいの脱水かどうかの判定や、通常の尿検査は痛くないため、子どもさんへのストレスが少なく、その上、情報量の多いお得な検査なのです。



全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なるため様子をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で相談しましょう。

せきが出る



小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう(P1参照)

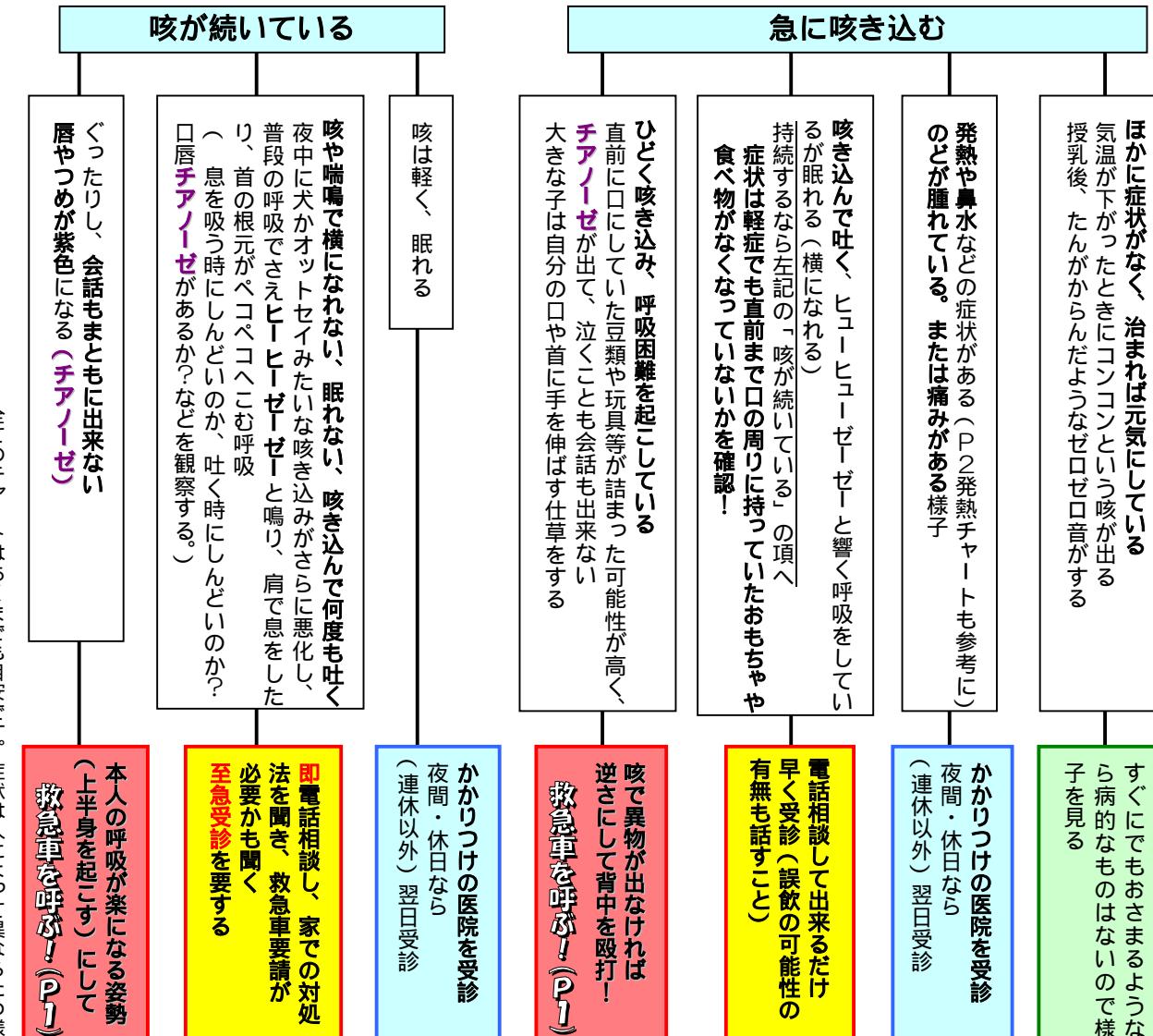
パニックになっては(もちろんのんびりしすぎても)いけません。
まずはあなた(パパ・ママ)が落ち着いてください。(芝居でも)
冷静な親を見ると、お子さんは安心します。
説明しにくい時は電話口に子どもさんを近づけ、咳や呼吸の音を
聞いてもらうか、携帯動画で記録!

医師に伝えること

- ・何かを詰まらせてはいないか
- ・特徴的な音のせきが出ているか
- ・発熱、鼻水など、
せき以外の症状があるか
- ・機嫌が悪くなったり、
食事の量は減っていないか
- ・睡眠はとれているか
- ・アレルギー体質はどうか

急病時の問い合わせ先

かかりつけ医、休日診療所などの
電話番号を記入しておきましょう。



全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なるため様子をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で相談しましょう。

ホームケア ぜんそく・クループの図(P9)も参考に

室内は換気、掃除をこまめにして清潔に。湿度を高めに保ちましょう。上体を高くして寝かせましょう。咳き込んだときは起こすか、抱っこして背中をさすってあげましょう。飲物でのどを湿らせてあげると苦しさが和らぎます。

のどや呼吸器の炎症のほか防御反応として出る」ともある

特徴的なせきの音で病気が分かることがあるので、まずはどんなせきが出ているのか確認しましょう。
電話相談のときに**本人の呼吸音を電話に近づけて相談相手に聞いてもらいつつ**。
せきはのどや呼吸器が炎症を起こしたときだけでなく、異物やほこりを吸い込んだとき、気温の変化が大きいとき、呼吸器の粘膜から出た分泌物をのどから外に出そうとしたときにも出ます。
せきは気道にたまつた分泌物や異物を体内に入れずに押し出し、呼吸機能を正常に保つための防御反応なのです。
気温が下がったときに出るコンコンというせきや、おっぱいやミルクを飲んだあとにするゼロゼロ音は、赤ちゃんによく見られるものなので心配りません。



1回吐いたら 1~2時間ほどは飲んだり食べたりせずにお腹を休めて!
発熱+頭痛+嘔吐の3つがそろえば『髄膜炎』の可能性あり!要注意!
緑色そして血性の嘔吐にも注意!お子さんはパパ・ママに怒られたり、
けがの痛みなどのストレスや不安が原因で嘔吐することもあります。

小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう(P1参照)



吐いた



赤ちゃんは少しの刺激で吐くことがよくあります

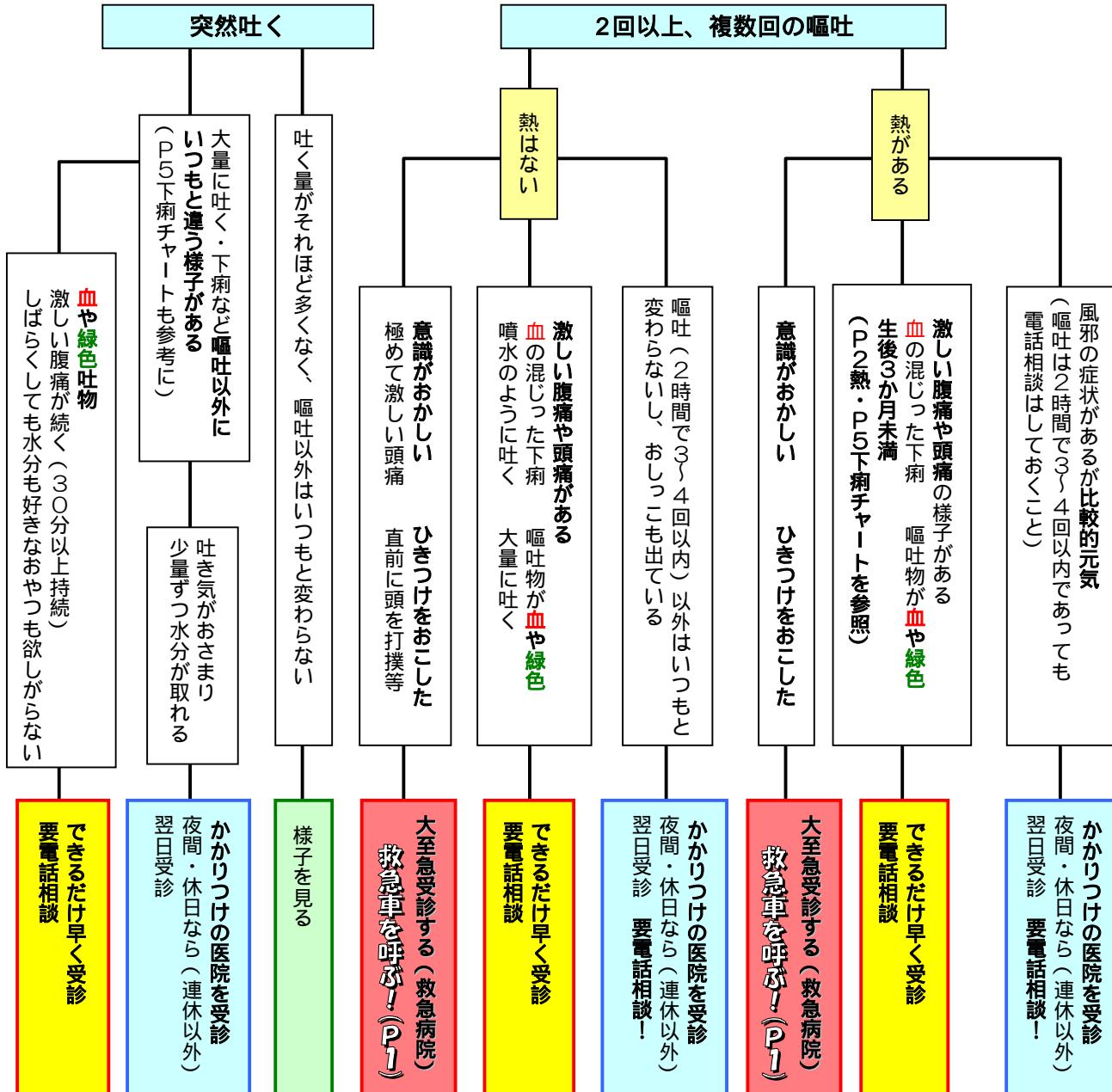
赤ちゃんの胃は大人のよつて曲がった形ではなく、細長い筒のような形をしているため、大人より吐きやすいもの。また、胃の入り口である噴門の筋肉が未熟なため、ちょっとした刺激で吐いてしまうことがあります。授乳後に口の端からおっぱいやミルクをダラダラと吐く（いつ乳）ことがあります。が、元気があり、体重が順調に増えていれば心配ありません。また、げっぷとともにおっぱいやミルクを吐いてしまったり、咳き込んで食べたものをもどすのはよくあることです。吐いた量が多くなる、機嫌がよくてほかに症状がなければ心配いらないでしょう。

医師に伝えること

- ・吐いた回数
- ・吐いたものの内容
- ・どんな状態で吐いたか
(げっぷと一緒に吐くなど)
- ・発熱や下痢など、
嘔吐以外の症状について

ホームケア

赤ちゃんの好きなものを飲ませる 脱水症にならないよう、嫌がらなければ少しづつこまめに水分を補給してあげましょう。(P1-4参照)
顔、体、衣類、寝具も清潔に 口のまわり、あごや耳の中など吐いたものが流れ込んでいるときがあります。しめられたガーゼでそつとふき取りります。
吐き気が続くときは、やさしくだっこ だっここの時は赤ちゃんが吐くことも考
えて、お母さんは肩から胸にタオルを当てておくようにします。
寝かせる時は上体を高くして顔を横にして。





家族や友人に伝染することがありますので、便や吐物の処理や手洗いをしっかりしましょう。
受診時には便の入ったオシメをビニール袋に**厳重に包んで**病院へ持参しましょう。
新鮮なうちに携帯写真に撮っておくこと。

小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう(P1参照)



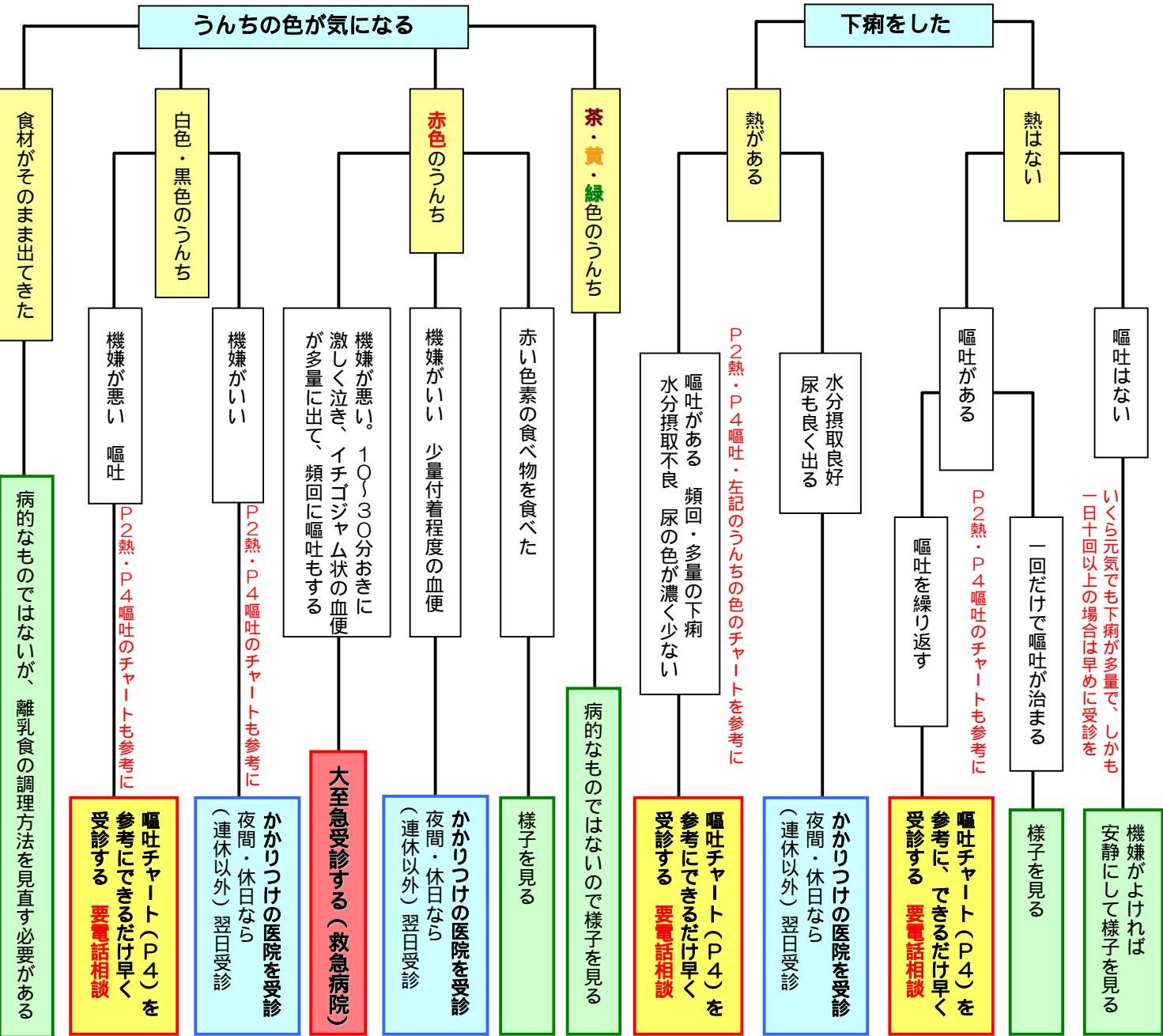
下痢

赤ちゃんは下痢をしやすく、うんちの色はさまざまです

少しくらい緩めのうんちでも、元気で食欲があれば問題ないでしょう。うんちの状態や排泄の回数は個人差があるので、普段から様子をよく観察して、風邪などの全身の病気の一症状として下痢をすることもあります。下痢以外の症状がないか確認を。下痢の時はお尻りがかぶれやすいので気をつけましょう。赤ちゃんのうんちの色は赤っぽい、ミルク、離乳食のメニューや月齢などによりさまざま。茶・黄・緑色のうんちは病気ではありません。赤・白・黒色のうんちは病気の可能性があるため注意しましょう。

▼ 医師に伝えること

- ・排便回数
- ・便の性状(色や硬さ)
- ・最近、飲んだもの、食べたものについて
- ・発熱や嘔吐など、他の症状について
- ・おしっこの回数や量・色



ホームケア

全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なるため様子をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で相談しましょう。時にはシャワーでお尻りを拭きましょう。時にはオムツを洗面器にお湯を入れ下半身だけに入浴させ、よく乾かしてからベビーオイルをつけオムツを当てましょう。

脱水症状にならないように、水分を補給しましょう。(P1-4参照)
食事は消化の良いおかゆなどを与えます。オムツがぶれるのでガーゼやタオルでお尻り拭きましょう。時にはシャワーでお尻りだけを洗ったり、洗面器にお湯を入れ下半身だけに入浴させ、よく乾かしてからベビーオイルをつけオムツを当てましょう。

病的なものではないが、離乳食の調理方法を見直す必要がある

嘔吐チャート(P4)を参考にできるだけ早く受診する
要電話相談

かかりつけの医院を受診 夜間・休日なら(連休以外)翌日受診

鼻血の止め方

15分間鼻をつまんで下を向かせる。血は飲み込まず、口から出す。この止血を2回繰り返してみる。



赤ちゃんは、体温・ご機嫌・活気・飲みっぷり・眼力（周りのものに興味をもっているか？）これらの状態が良ければほとんどの問題ありませんが、特に3～6か月未満の児の場合は早め早めに電話相談するほうがより安心です。

小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう（P1参照）



いつもと様子がちがう

